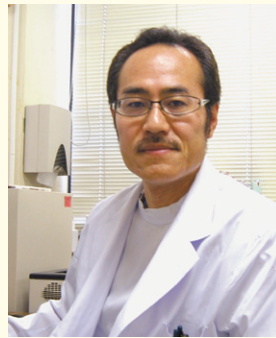


健康通信

高齢化社会に伴い増加する認知症



血管内治療
脳神経外科部長医師
飯塚 宏

認知症とは？

「脳や身体の疾患を原因として記憶・判断力などの障害が起こり、普通の社会生活が営めなくなった状態」と定義されています。つまり、「病気」であって、加齢にもなっていない「単なるもの忘れ」とは違います。

我が国の認知症の有病者数は439万人と推定され、65歳以上の人口の約15%、認知症の前段階の軽度認知障害(MCI)の有病者数も380万人と推定され、合計すると65歳以上の人口の約1/3は認知障害が始まっているとも考えられます。よって認知症は特別な疾患ではなく高齢化が進む我が国においては国民病とも言われています。

認知症にはどんな種類があるの？

認知症には様々な種類があり、その種類は、認知症の疾病原因からいくつかに分けられています。脳の神経細胞の異常が原因で起こるアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症に代表される「変性性認知症」、脳梗塞など脳の血管の異常が原因で起こる「脳血管性認知症」、脳外傷や脳腫瘍、正常圧水頭症、脳炎などで起こる「その他の認知症」です。



具体的な症状は？

メインにあらわれる症状を中核症状と言います。「知的能力の低下」があげられます。知的能力の低下の初期症状では、もの忘れがひどくなったり、新しいことを覚えられなくなる。「記憶力障害」、人や周囲の状況、時間、場所など自分自身が置かれている状況が正しく認識できなくなる「見当識障害」があります。それ以外を周辺症状と言います。不眠、幻覚、妄想、抑うつなどの「心の変化」、徘徊、暴力、不眠、異食、弄便などの「行動の変化」、食事、入浴、排泄などが上手くできなくなる「日常生活能力の低下」、歩行障害、食べ物の飲み込みがしにくくなる、尿や便が出にくかったり、失禁したりといった「身体への障害」などです。周辺症状の方が介護者に負担になることが多いために最近では問題となっています。

どのように診断するの？

認知症の診断は前述のような症状をみる臨床診断が基本です。しかし最近ではMRIで脳の萎縮を評価したり、脳血流シンチグラムで脳の機能を評価する画像診断が発達してきました。これらの検査は認知症のみならず認知症の前段階のMCIの病態も把握できるため、早めに対策を講じることができると考え



られています。また脳血管性の認知障害や外傷による慢性硬膜下血腫、脳腫瘍、正常圧水頭症などの鑑別は必須であるために画像診断は必要であると考えられます。

ご自身やご家族が認知症かも知れないと感じたら、まずはかかりつけ医にご相談ください。精査が必要であったり、鑑別が難しい場合は当院に紹介してもらえますので安心して受診してください。



職員募集の

お知らせ

平成28年度4月1日採用
市民病院嘱託職員

言語聴覚士

人員 1人程度
対象 言語聴覚士資格取得者
勤務 月～金 午前8時30分～午後4時30分
月給 229,300円
申込み 3月23日(水)必着 までに履歴書(写真貼付)、資格免許証の写しを郵送または直接病院総務課(〒485・8520住所 不要)
※3月28日(月)面接予定